

会 議 録

嘉手納町教育委員会

1. 会議の種類：平成29年度 第8回（定例会）
2. 期 日：平成29年10月26日（木） 午前10時00分～午前11時05分
3. 会 議 場：庁議室

4. 会議に出欠した教育委員

職 名	氏 名	出席	欠席	備 考
教 育 長	比 嘉 秀 勝	○		
教育長職務代理者	奥間 千津子	○		
教 育 委 員	宮 里 啓	○		
教 育 委 員	眞 壁 節 子	○		

5. 職務上会議に出席した職員

教育総務課長 金城 睦 和
教育指導課長 浦 崎 直 哉
社会教育課長 上 地 康 夫
中央公民館長 新 垣 美 佐
教育総務係長 我 那 覇 弥 生

教 育 長：ただいまから、平成29年度第8回定例教育委員会会議を開会します。はじめに、会議規則第6条に基づき非公開事項についてお諮りします。本日の協議題等について、非公開事項はありませんので、すべて公開としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

全 委 員：異議なし。

教 育 長：異議なしと認めます。それでは、本日の会議はすべて公開とします。また、公開とされた議事進行中に、新たに非公開が妥当とされる審議事項が出された場合には、改めて非公開の発議をお願いいたします。続いて会議規則第15条に基づき、本日の会議の進行についてお諮りします。本日の協議題は、議案第11号のみとなりますので、始めに教育長諸般の報告、次に議案第11号の審議を行い、提案があれば、その後にその他の事項の審議の順に進めたいと思いますが、ご異議ございませんか。

全 委 員：異議なし。

教 育 長：異議なしと認めます。会議の進行について決定しましたので、これから会議をはじめます。

6. 教育長諸般の報告

教 育 長：まずは教育長諸般の報告を行います。お手元の報告書をご覧ください。（※資料参照）

9月30日から10月1日までの野國總管まつりでは、青少年センターを中心に帰宅指導が行われまして、両日ともスムーズに帰宅指導に従う様子が見られました。1日目は、22時前まで車座になって飲んでいるグループが3～4組見られましたが、2日目は、さっと潮が引くようにみなさん帰っていった、嘉手納町民は協力的だと思いました。まつり自体も、町外から来た友人等は、焼き鳥やビール等、出店の品物が安いと話していました。それから嘉手納の花火が良いとも言っていました。10月3日の中頭地区公立小・中学校校長会研究大会では、校長方の顔を拝見すると、若い頃に教科指導で教育課程の研究員をした教科指導のエキスパートや、領域についての研究等を施した面々が校長まで上がっているという感を受けました。10月4日の嘉手納中学校校内合唱コンクールでは、1番目が町歌斉唱でした。委員の皆さんにもご参加頂きましたが、あのように学校では町歌がきちんと指導され、子ども達の中に浸透しつつあるようです。秋田交流の際も、バスの中で町歌を歌って過ごしたとのことです。10月5日の童話・お話・意見発表会では、途中でつかえた子が最優秀賞、自分は優秀賞ということで、表彰式の時に泣いている子がおり、真剣そのものだと思いました。審査については後程反省を持ちたいと思っておりますが、自分が思っていることをちゃんと伝えられるというのは良いことです。10月11日には、ハワイ北谷・嘉手納町人会のジョン糸村さんが率いて20数名が来町され、歓迎会を設けましたが、英会話力が必要だと痛感いたしました。10月15日のかでなっ子フェスティバルは非常に盛会で、放課後こども教室や、自分の時間を費やしてスポーツや趣味に取り組んでいる子ども達を中心になって発表しており、2年に1度の開催でちょうど良いと感じました。以上、諸般の報告といたします。委員から何かありませんか。特に無いようですので、これを持ちまして、教育長諸般の報告を閉じたいと思います。

7. 協議題

①議案第11号

教育委員会だより（全国学力・学習状況調査結果の公表）の発行について

教 育 長：議案について、提案をお願いします。

教育指導課長：（※議案読み上げ）お配りした資料をご覧ください。今年度も8月に、平成29年度の全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。その概要についてまとめたものになっております。（※資料参照）

教 育 長：質疑、ご意見等はございませんか。

教育長職務代理人：学校に勤めた者として、よく課題が見えてまいりました。学校における分析としては非常に良いと思いましたが、地域や家庭に家庭教育等を啓蒙する内容を、最後のまとめの部分に加えてはどうかと思います。『教育委員会としての助言の柱』の部分に、学校に対する指導助言に加えて、保護者としてどういったことに気をつけたら良いか分かる、家庭・地域に向けたものもあるといいのではと思いました。家庭学習が課題として上がっていますので、そういった面ですとか、生活リズムに関係してくる面とか、それから、自分の思っていることをシャットアウトするのではなく、しっかり言わせて頂きたいと思います。こういった面は、沖縄県の子どもの課題だと思っておりますので、それがあると良いと思います。

教 育 長：ありがとうございます。他にございませんか。数字だけでは無くグラフもあり、非常に見やすく、わかりやすくなりましたね。

委 員：5%以内は差異が無いと記載されていますが、小学校は、県や全国と比較してもプラス、あるいはマイナスでも範囲内ということで、ここまで来たのはすごいと思う一方、なぜ中学校はこんなに差があるのでしょうか。実際、県も全国との差は5%以上離れていますが、嘉手納町に至っては10%以上も離れています。小学校が上がれば上がるだけ、中学校が伸び悩めば伸び悩むだけ、余計に疑問が出てきます。思春期という言葉で言ってしまうと、全国でも思春期はありますし、なぜなのでしょう。数が少ないので一概に言えないでしょうが、学力調査の中で、県内の私立中学校も全国に及ばないのでしょうか。明確な答えは無いでしょうが、そこが見えてくると、何か一筋の光明が見えてくるのではないかという気がしてなりません。違う人種でも家庭環境でもないのに、なぜなのでしょう。しいて言うならば、違うのは先生、学校になるのではないかというところが、これに対する感想というか、本当に疑問なところなんです。

教 育 長：4月に来たばかりですが、教育指導課長は中学校の状況等を見てどう思われ

ますか。

教育指導課長：まずは正答率についてですが、正答率にするとこれだけ数字の差が出ますが、正答数にすると、1問差とか、1問に満たないくらいの差という形で出てきます。正答率にすると差が大きく見えるということで、数字のマジックみたいなものですので、数字は冷静に見ないといけないと思います。それから、正答数分布グラフを取って載せたのは、嘉手納町の子ども達の実態がこういう風に下位層にも上位層にもたくさんいるということを見たいという理由です。これまではどちらかというと、下位層の子ども達を上げるための取り組みをずっとやってきていて、そのための支援員もたくさん出しています。ところが、エネルギーもいる、時間も掛かるということではなかなか成果が出て来ていないというところなのですが、今回秋田県に行くととても感じたことは、学ぶ集団として出来上がっているということです。学習課題を設定すると、この問題は一人一人の問題として捉えているところがあって、そこには、みんなで解いていこうじゃないかという、学ぼうとする雰囲気が出来上がっています。そしてその聞かれた質問に対して答えていきながら、答えきれない生徒に対しては、別の生徒が代わって説明する等の学び合い、支え合いがしっかり出来て、学力が上がっている状況があります。秋田県も以前は大変学力が低かったらしく、そこで探求型の授業を入れて、自分達で主体的になって授業が出来る雰囲気になったということです。ところが、沖縄県の中学校の授業というのは、受身型の授業で、極端な言い方かもしれませんが、授業が分かっているようが分かっているまいが、どんどん授業が進んでいき、その時間で分からなかった生徒への手立てはどうなっているかということが、やはり課題になっております。小学校の場合は、放課後に残して少し学び直しをする時間もありますが、中学校の場合は、部活動とか、塾に通うとか、いろいろな時間の制約があってできない部分があります。そういった意味では、嘉手納中学校は今よく頑張っているという感じはしますが、やはり授業の理解の仕方には個人差があるということを先生方が分かってあげること、そのためには普段の授業の中で、学びたいという生徒達の意欲を引き出しながら授業をしていくことが求められると思います。ところが、今の中学校の授業を見ていると、小学校の立場から言いますと、なかなか魅力を感じない授業になっているのではないかと思います。そういった意味で、やはり教材研究の時間に、生徒達がどうしたらこの問題に目を輝かせながら取り組もうという気持ちになるか、どういう問題の提示の仕方であれば子ども達は乗ってくるか、どんな説明の仕方であればわかってくれるかという教材研究をもっともっとやらないといけないと思いますし、そのための時間の確保というの、今後は大事かと思います。そして、やはり授業の中でもしっ

かりマネジメントしないといけないと思います。「今日の時間は、こういう力をつけるために、こういう流し方をしました。」と、最終的にこの生徒達は本当にわかったのかどうかということを、まとめと振り返りの時間を必ず作っていくことです。秋田型はそのサイクルがしっかり回っています。振り返りを見た時に、この生徒が本当に分かっているのか分かっていないのか、分かっていない子にはどういう手立てをするか、家庭学習はどういったことをしてきなさいというアドバイスが出来るかという、細かいシステムを構築していかないといけないのではないかと思います。中学校では振り返りまでなかなか出来ていない部分があり、それは先生方の説明が長いという理由があります。今回子ども達が、秋田でとても感じていたことは、自分達が授業を進めていく、意見を伝えていくということです。先生方は、生徒達が発表したことを板書するだけなので、50分以内に振り返りが出来るという授業が出来ています。そういうシステムの良さというのを、秋田に行った先生方はやはり感じていると思いますので、そういったものを徹底して本町の中学校にも入れないといけないと思います。これはやはり沖縄県全体の課題かと思っています。秋田では「これは当たり前のことです。」、「当たり前のことを徹底しただけです。」としか言っていません。「特に何かした訳ではありません。」ということをしりげなく言うものですから、この当たり前のことを徹底するだけで、学力は上がっていくのだなと思いました。私が行った北陽中学校は、校長先生が体育の出身、教頭先生も体育の出身、教務主任が体育の先生と、体育の先生で秋田県の学力上位の学校に上げています。ここが重視したところは何かということ、学習規律です。名前を呼ばれたらしっかり「はい」と返事が出来る、話をする方向へおへそを向けて向かうことが出来る、これは当たり前のことだと言っていました。そうすると生徒達の反応が良く、1人の子が発表すると、「おー」とか「えー」と反応します。そういう集団の雰囲気は学力の底力を上げているのだなと思いました。難しいかもしれませんが、そういったシステムを嘉手納中学校にも導入していきたいと考えています。

委員：今お話された中で、数字のマジックとありましたが、1問差が大きいというのは事実だと思いますが、10~10数ポイントとなると、先生方はとてつもないイメージでしょうし、町民からするととんでもない数字ですので、その中で、現場にいる人達にあと1歩、あと1点、あと1問ということで指導していきたいとあれば嬉しいと思います。それから、学ぶという姿勢の中で、特に去年までの嘉手納中学校を見ていると、みんなで学ぼうというよりも、一部の生徒に授業が攪乱されて、それ以外の生徒が置いていかれているという事実があり、学ぶ姿勢どころではなかったように思います。下の方を伸ば

す努力をしてきたけども、上が伸びていないという事実があるということでしたが、一方で、北陽中で授業を乱すという雰囲気は微塵もありませんでした。そういうことからすると、攪乱させられるというか、落ち着かせるということはどうしていくのだろうと思いました。最後に、先生方を見ていて思うことですが、嘉手納中学校を見ていると、良くも悪くも生徒に近い、若い先生方が多いと感じます。私の歳のせいかもしれませんが、先生方が幼くなった気がします。北陽中学校の先生方もフランクに話しますが、先生と生徒という歴然とした差があった気がします。これが良い・悪いではなく、友達〇〇というのは社会的な風潮ですが、おへそを向けるだとか、靴を揃えるだとかは、友達では絶対助言出来ないと思います。この3点を教育指導課長のお話の中で感じました。もう分析されていると思うので、ぜひここは生かして欲しいと思います。

教育長職務代理人：先ほど、振り返り学習のお話が出ていましたが、数学、算数は系統性の高い学習ですので、どうしても事前調整学習が必要になってくると思います。数学のグラフを見てみると、正答が無い0問が、数学Bで言うと2%、数学Aでも1%は何も解けなかったということです。例えば、方程式や二次関数を勉強する際には、その前の一次関数や小学校の範囲の振り返り学習をしておかないと、その中に入ってこれないし、探求型の学習はついていけないと思います。事前学習をしていなければ、この子自身が何もわからない訳ですので、いかにそういったケアをしていくかということが、本町では大事になってくるのではないのでしょうか。放課後学習等を大事にしていきながら、その学習に入る前のケアをし、その時間に入ったら、「そのために先生は、振り返りを家庭学習の中でやってくるようにおっしゃっていたんだ。」となるようなシステムを構築していく必要があるのではないかと思います。そして、数学というのはよく、中学生のお母さん達から「小学校までは少し分かっていたけど、中学校になったら全然わからない。」という話を聞きます。数学は論理的な思考なので、算数とは違うと思います。そこをいかに育てていくか、6年生くらいからは想定して橋渡しをしていく、そういったことが出来る授業を構築していかないといけないのではと常々感じております。

委員：中学校の先生についてですが、先日、日渡円先生のお話の中で、上に立つ者、指導していく者の1番大切なところで、スキルはもちろんありますが、価値観という言葉が何度も出ました。例えば、授業の持ちようだとか、考え方ということはもちろんですが、やはり個々の先生方が持っている価値観を高めるとか幅を広げることが絶対に必要になってくると思います。ですから、幼さと言った時に、ただ年齢だとか、本務だとか臨任だとかいう話だけではなく、その人の持っている価値観が子ども達に出てくるだろうと感じま

す。朝のあいさつ運動に10月から部活の保護者が来るようになったおかげで、100点とまではいきませんが、子ども達が足を止めて挨拶できるだとか、集団で挨拶できるようになってきています。それにも関わらず、そこに来る顧問の先生方には大きな差があり、まだ3人ですが、やはり幼さを感じます。挨拶というのはこういうものじゃないと、生徒に言う前に先生に言おうかと思うくらいのところがあるのも事実です。小学生まではまだ好き嫌いのレベルでも良いですが、中学生になってくると尊敬できる、憧れるというところが教師には絶対必要なはずで、ですから、ここは価値観の教育というところを教育委員会として進めて頂きたいと思っています。

教育指導課長：本当に有難いご意見です。秋田県に行って比較する対象があって、今本町の課題が浮き彫りになっていることを痛感しています。秋田に行ってまずキーワードとして浮かんだことが、ベクトルがみんな一つに向かっているということです。校長先生を中心として、先生方も同じ方向に向かった教育を進めていますので、そういった意味では価値観が揃っていると思います。そして先ほど言われたように、やはり教師個々において、生徒にとって一目置かれるような存在でなければいけないと私は思います。「この先生は教え方がとても上手」、「この先生から学べば、私は本当に力がつくんだ」と思われるような教師個々になっていかなければならないということをととも痛感しました。あちらにも初任者がいて、若い教師もいて、それをしっかり育てている教師集団であったと思います。今、嘉手納中学校は若い教師が多いというお言葉もありましたが、つまり若い教師も多いということではありますが、そういった意味では学ぶ姿勢も沢山あると思いますので、それは学校の中で校長先生がどのようにそういった集団を束ねていくかということになってくるかと思っていますので、今後も期待していきたいと思います。

委員：最初に授業参観に行った時に、授業中に寝ている生徒がいて、それを無視した授業があったことが、今でも脳裏から離れません。寝ている中で授業を進めていて、先生も回りながら、この子から遠ざかっているような感じで、なぜ声を掛けてくれないのかと思っていました。この子が起きだすと、授業の妨害になったりとか、イライラ感があったりずっとこの子と関わりを持ったりして、授業が遅れるという問題が出てくるのかと思いました。今日お話を聞いていると、子どもの学習だけではなく、子どものいいところ探しをして、言葉のシャワーをいっぱい浴びせて自信を持たせるのが1番大事だと思います。やはり中には、例えば行事等の時に「あの子が休んでいて良かった。スムーズに進められる。」と、保育所でも価値観の違いがあります。例えば、言葉が遅いだとか落ち着きが無いだとか、ちょっと気になる子の場合には、「このお母さんは難しいから、親が気付くまでそのままにしておこう。」と

職員も離れていってしまうと、この子もみんなから離れて我が道をいってしまつて、そうすると危険度が高くなって怪我してしまつて、その時に初めて、実は前から気になっていたけど、何か言われるかと気にしながら怯えていたという保護者も多いです。やはり小中学生も同じで、気になる子、勉強は出来るけれども生活面が気になる子、会話が出来なくてコミュニケーションが取れない子等、そのままでもいいのかと言うとそうではないし、例えばいじめ等の問題に関しても、授業中に会話を聞いて「今の言い方はおかしいんじゃないの。」と言えるような体制作りが必要だと思います。わざわざ残つて話すとかではなく、45分の休み時間に喉を潤す時は、教室で子ども達と会話しながら等、子どもの気持ちを察する、子どもと触れ合う、子どもが何か投げやりな言葉を発した時は、時間を置かずにその場にいる先生が直接指摘したり、誰かが休んだ時にもその理由を何気なく聞いたりすると、色々な声が聞こえてくると思います。人を傷つけることを言うてはいけないこと、あなたが言ったことでこうなっているんじゃないかということ、子ども自身に気付かせるということが今、足りない気がします。自分では良かれと思って言った言葉が、相手にとっては「死にたい」、「学校に行きたくない」、「自分はみんなから嫌われているんだ」と思わせてしまうもので、そういう思いを持ちながら学校に来ている子は、「早く学校から離れたい」という気持ちになってしまうのではないかと思うので、そのためにはやはり、休み時間等も子どもと一緒に触れ合うということも大事ではないかと思います。授業参観の時にも感じますが、休み時間になると先生は教科書を持ってすぐパツと出て次の授業に行つてしまいますが、長い休憩時間がある時には、残つて子ども達の表情をチェックしたり、家庭のことも聞き出したりする等、日常会話的なものから、子どものSOSのサインをキャッチしながらやっていくと基本線が出来ていくんじゃないかと思います。当たり前のもが出来ていないのに更にというと、心が追いつかない状態があるので、「自分は別に試験は0点でもいい」とか、「自分のこと誰も注意しないのに」と、声を掛けて欲しい子ども達が多いのではないかと思います。道で子ども達に「元気？学童にいたよね。」と声を掛けると、「先生、私のこと知ってるの？あのね…」と、人数が集まってよく喋ったりするので、言葉掛けに飢えているのかと思ったりもします。通学路でよく会う子達に「挨拶上手になったね。ゴミも拾つてね。」と褒めて声掛けすると、ゴミ拾いしながら学校に行く子もいて、地域の方々もこういう風に当たり前のことを進めていくと、地域との連携も取れていって、繋がりが出来て、「あなたをみんな知っているんだよ」というのが心の支えになっていくのではないかと思います。本当に基本は当たり前のことからスタートだと思います。

教 育 長：人間関係をきちんと醸成していくことが、子ども達の心にやる気を起こさせるということにも繋がるということですね。

教育長職務代理者：昨日あいさつ運動に行きましたら、野球部が担当でしたが、ちゃんと止まって挨拶してくれて、非常に嬉しい場面でございました。先ほどと少し重複しますが、今は不登校が少なくなってみんな教室に入っているという良いニュースが流れていますが、なかなか授業についていけない子は、わからないと言って眠ってしまう場面等もあるらしいです。3年生になるとみんな高校に行きたいと意欲満々なんですけど、しかし日常の数学の授業にどうしてもついていけないという現実の繰り返しのようで、取り出し指導をして、掛け算九九からやっぺいこうという計画をし、警察からのボランティアとして年間2名ほど入っている沖国大生が授業をする予定だったようですが、用事が入ってキャンセルになってしまって、地域からお願いしようということになり、私に連絡がありました。やはりそう考えると、根本は小学校にあると思います。小学校は平均的には上がっていますので、上位の子を伸ばすはもちろんですけど、底辺のみなさんをいかに伸ばしていくかということになります。みんなが参加する授業というのは、内容を工夫していかないと、楽しく授業ができないのではないかと、わからないからどうしようもないのではないかとふと考えました。教育委員会だよりも『ボイスシャワー』とありますが、授業の中で「自分は頑張った」、「やったんだ」と自己有用感を高めるためには、少しでもわからないといけない、わからないと高められないと思います。そこをケアすることについては、教育委員会でも考えていく必要があると思います。昨年やったように、高校生でも大学生でも、地域の方でも募って、出来ることでいいから、部活が終わった後の1時間でも自由に来て勉強して帰っていく場が出来ればいいなと思います。

教育指導課長：前回の教育委員会会議で、自己肯定感・自己有用感のお話が出ましたが、やはり授業の土台になるのは、こういった自己肯定感をしっかり持っている子ども達を作り上げて授業するということが大事だと思います。そういった意味では、小学校からではなく、就学前の子ども達の教育から自己肯定感を高めることです。特に私達は、3歳児、4歳児、5歳児という3年保育をやっていきますので、そこから高めていって、この子達が小学校・中学校に来た時に、やはり幼いころからの経験というのは生かされると思いますので、そういったところを考えていきたいと思っています。昨年までは生徒指導で、なかなか授業どころではなかったという話がありますが、そういった問題行動を起こすとか、学力の低い子達に共通しているのは、やはり自己肯定感の低い子ども達ばかりです。それを高くしていくには、どうしたらいいのかということで、実は秋田県も同じような状況でした。問題行動が起きた時は、先生方

は時間もエネルギーも掛かって、相当やったけどもなかなか学力は上がらないということで大変疲労していました。発想を変えて、分かる授業をしていくと、子ども達がどんどん伸びていって、生徒指導の問題も無くなっていったという形で、今、大館市は人口が約7万人いて、非行という言葉がもう死語になっている、補導件数が0件という状況が生まれています。やはり、学校だけではなく地域も巻き込んで、みんなが同じ方向に向かっているということがありますので、私達の嘉手納町というところは、1中学校、2小学校、2幼稚園というまとまりやすい地域ですので、そういった教育を進めていけば、やはり打開策は見えてくるのではと思います。ただ、1～2年ですぐには変わらないと思いますので、やはり就学前教育にもどんどん力を入れていきながら、この子達が卒業する頃にはこういう姿が出来上がって、小学校と繋いで、小学校は中学校と繋いでいくようなシステムが出来ればと思っていますので、そういった意味では幼・小・中連携を強く徹底して進めていきたいと思っています。

委員：今出てきた大館のベクトルの話ですが、これは小学校とか先生方というレベルではなく、地域のベクトルが合っています。なぜ7万人が合わせきれるのかというのは単純に、強烈な危機感です。避けられない危機感が目の前にあるから、大館はやっています。幼稚園までは福祉だと縦割りの話がある中で、生涯教育として、例えばかでなっ子フェスティバルや、あるいはうたの日コンサートを含めて色んなイベントの町づくりの根幹のところベクトルが合っているかということです。県民所得も大差が無い、母子家庭率は嘉手納が高いにしても、大館も0ではない中で、非行が0、給食費未納も0ということからすると、やはり根幹だと思います。ですから北陽中が良い、城西中が良いとかではなく地域が良い、地域が良いというのは何かというと、ベクトルが合っている、同じ方向を見ているということです。私が宿泊したホテルの後ろは国際通りと言われたところで、看板は全部下りていますが、沖縄の松山や辻みたいなどころです。ああいうところから出てくる城西小学校だからこそ、コミュニティースクールが必要だだけなのです。私は今、挫折感とまでは言いませんが、強烈になるほどと思いました。そこに真摯に取り組んでいくためには、やはり未来を予測できる危機感が必要です。英語教育だけではだめです。人口減少、産業、色んな面で、嘉手納町は秋田に比べれば絶対に良いところですから、今言ったベクトルを合わせるために、町全体としてのものをどう機運を盛り上げるかというところに掛かってくると思います。ですから、全てのイベントだとか物事を、町のお金が突っ込まれるものについては町づくりなんだ、未来を作るんだというところに根っこを持っていかないと難しいと思います。大館がやったのは、未納0です。信じられ

ますか。私達は逆に与えて0に平準化してしまっていますが、逆に、払った人に払うというくらいのもので良いのではと聞いたら、「子どもが食べた分を払うのは当たり前でしょう。」という、その意識が地域を作ると思います。

教 育 長：ありがとうございました。他にご質問やご意見はありませんか。地域や家庭に対するコメントも加えるということを検討した上でご異議ございませんか。

全 委 員：異議なし。

教 育 長：それでは議案第11号教育委員会だより（全国学力・学習状況調査結果の公表）の発行について承認いたします。その他事項について提案はございませんか。無いようですので、これで第8回定例教育委員会会議を閉会といたします。お疲れ様でした。

8. 会議録の署名人

教 育 長

比嘉秀勝 印

教育長職務代理者

奥間千津子 印